固定観念を超えて

飯南町立頓原中学校　二年　　丸山湖々菜

　皆さんはいつも自分のことをなんと言っていますか。

　日本には自分のことを指し示す言葉として、「僕・私・俺・うち」など、いろいろな呼び方があります。きっと男性の多くが「僕」や「俺」。女性の多くが「私」や「うち」と言っているのではないかと思います。ですが、人前で発表するときなど、かしこまった場面では、男性も女性も「私」と丁寧な言い方をします。そんな一人称について、私は考えてみることにしました。

　今年のゴールデンウィークに私は三兄弟の友だちの家に行きました。そのときに、今年小学二年生になったＡちゃんと遊びました。私がいつものように一人称を「僕」にして喋ると、Ａちゃんが

「女の子なのに僕って言っていいの？」

と聞いてきました。私は、Ａちゃんがそんなことを聞いてくるのが不思議でした。なぜならＡちゃん自身も、上の兄弟が兄だったので、前までは自分のことを「僕」と呼んでいたからです。私が「なんで？」と聞くと、Ａちゃんは、幼稚園のときにクラスの子に「女の子は僕って言っちゃダメ！」と言われたと教えてくれました。

　私は驚きました。まさか身近なところに、しかも幼稚園とか小学二年生でこんなことを言う人がいるとは思っていなかったからです。Ａちゃんは、「女の子は私、男の子は僕と言わなくてはいけない」と思い込んでいます。そして、それを当たり前のこととして、周りの人にも伝えています。これが、Ａちゃんの固定観念となったのだな、こうやって固定観念や偏見って続いていくのだなとそのとき、思いました。

「女の子は私、男の子は僕。」

　本当に、こんなことにこだわる必要はあるのでしょうか。皆さんはどう思いますか。

　少し調べてみると、一人称が時代によって変化してきたことがわかりました。例えば、かつては男性が「私」という一人称を使うことが主流でしたが、明治時代以降、西洋の影響を受けて、僕や俺という一人称が男性の間で一般化したそうです。他にも室町時代には、女性は「わらわ」が多く使用され、江戸時代では「われ」「わし」が多く使用されるようになったであろうということが分かっています。今、「わし」というと、おじいさんだと頭に浮かんでくるのではないでしょうか。これが今の私たちの固定観念です。しかし、この固定観念は時代とともに変わり、絶対に正しいものではないということが分かります。

　であるならば、固定観念を押し付けられたり、固定観念に縛られたりすることはくだらないことだと思いませんか。固定観念がいつも悪いわけではないのかもしれません。でも、それにこだわって、自分や周りの人を縛りつけてしまうのは、もったいないことだと私は思うのです。

　今は女性でも、「僕」や「俺」と言う人が増えてきたと感じています。私自身も、いつも

は自分のことを「僕」や「俺」と呼ぶことが多いです。でも、女性が「僕」や「俺」を使うことに対して「アニメの影響を受けていそう」「オタクっぽい」「そういうキャラってアニメとかドラマの世界にしかいないし、実際に言う人を見たら引く」など、あまりいい印象で受け止められていないことも感じています。

　でもそんなこと、私には関係ない。

　最近、テレビなどでよく見かける「あのちゃん」も、自分のことを「僕」と言っています。そのことについて、あのちゃんがインタビューに答えた記事がありました。

「そもそも海外に行ったらみんな自分のことを『Ｉ』、わたしって言うでしょ。男の人でも『Ｉ』、わたしって言うけれど、わざわざなんで私って言ってるの？って聞くの？理由なんていらないんだよ。そもそも。」

　固定観念や偏見に縛られない自由な生き方、自由な選択を、私はこれからもしていきたいと思っています。